

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2018年5月20日発行 第81号

事務局便り

会員の皆様、日頃はキャンヘルプタイランドの活動にご協力下さりありがとうございます。当会は、タイ東北地方での奨学金支援から始まり、学校の校舎建設、給食支援、図書支援など様々な活動を通して、タイの子どもたちを取り巻く教育環境が少しでも良くなるように支援してまいりました。

2018年の現在、支援活動開始から25年以上が経ち、タイの経済発展と共に、子どもたちを取り巻く教育環境もかなり変化してきました。山岳部などの学校そのものがない地域を除くタイのほとんどの地域で、小学校へ通えない子どもはほぼいなくなり、義務教育である中学までは卒業できるようになりました。20年前のタイ東北地方では、通学用の靴が買えなかったり、穴のあいたお下がりの制服を着ていたりする子どもも多く見られましたが、経済発展により国からの支援などが受けやすくなり、そのような姿の子どもはほとんどいなくなりました。長年、タイの子どもたちのために活動してきた私たちにとっては大変喜ばしいことですが、同時に我々の活動意義も薄れてきているのが現状です。



そのような状況の中、タイの周辺で、我々が培ったノウハウを生かせる様な国はないかと、隣国のカンボジアに焦点を当て、支援の必要性や重要性などの調査を経て、できることから始めようと、まずは小学校でのトイレ建設支援を開始しました。2017年には4校の小学校でトイレ建設を行い、2018年も2校の小学校で支援を行う予定です。

昨年トイレ支援したカンボジアのバタンバン州サンパオルン郡地域は、カンボジアが内戦をしていた30年前まで野生のトラや象などが生息する広大なジャングルだったそうです。しかし、内戦終結後に国内情勢が安定すると、世界中がその地域の森林資源に注目し、大規模な木材伐採が開始されました。ちょうどそのころタイは経済発展の真ただ中で建設資材としての木材が大幅に不足していましたが、タイ国内の森林資源は規制により伐採できなくなっていました。カンボジアと国境を接したタイは、カンボジアから良質な木材を安く大量に輸入することができ、さらには国内消費に留まらず、カンボジアには無い整備された大きな港を利用した材木輸出でも経済的な恩恵を受けることができました。現在のカンボジアのサンパオルン郡周辺は、ほぼすべての森林がなくなり、トムロコシ、キャッサバ、サトウキビなどの作物を大量の農薬や化学肥料で栽培する畑になっています。我々は、タイの急激な経済成長がカンボジアの過度な自然破壊やカンボジア国民からの経済的搾取によってもたらされたという事実を忘れてはいけません。

タイの発展に寄与してきた私たちは、カンボジアの子どもたちの将来にも目を向けるべきだと考えています。今後、キャンヘルプタイランドでは、タイで行ってきたような学校校舎建設や奨学金の支給などの支援をカンボジアでも実施できればと考えています。そして、10年後、20年後のカンボジア子ども達を取り巻く教育環境をタイと同じレベルまで向上させることができるよう頑張ります。

今後も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

報告1

～カサロンの家牛小屋建設ワークキャンプ～

山本

2月20日～26日の1週間、牛小屋作りのワークキャンプへ行ってきました。

運営委員会での話し合いの中で、ランチプログラムの1つとしてチェンマイ県にある「カサロンの家」で子牛を育てたり、牛を育てて大きくなったら売ることによって現金収入を得たり、堆肥を作ったりすれば、少しでもカサロンの家の子供たちの食事や収入の助けになるんじゃないかな、という思いから決まったワークキャンプでした。

今回のキャンプには初参加の方2人、キャンから2人の4人で行ってきました。

初参加の方は12月に名古屋 NGO センター主催で行われたワークキャンプ説明会をきっかけに参加してくださいました。



私はカサロンの家に2016年の奨学金ツアーに同行させてもらった際に少しだけ行ったことがあったのですが、その時は子供達と接する時間があまりなくて残念だったので、今回はカサロンの家で子供たちと一緒に生活ができることもとても楽しみでした。

ワークキャンプ初日は柱のサビ塗りをしました。坂さんや手伝ってくれていたタイの方が炎天下の中、屋根の上での作業も進めてくれました。

日本は真冬だったので、タイの夏の暑さに汗びしょりになりました。

午後の1番暑い時間帯は作業は休憩して、市場へ夕食の買い出しに行ったり、ドイサケット寺院へ行ってみたりもしました。

2日目は屋根のネジ止めを少しだけお手伝いしました。屋根の上での作業が続き、男の人達が中心となって進んでいきました。

なかなかお手伝いできなくて申し訳ない気持ちもありましたが、子供たちと過ごす時間がたっぷりあったので嬉しかったです。(笑)

子供たちとはお互い片言の英語でやり取りをしたり、みんなとっても元気いっぱいなので汗だくになりながら一緒に遊んだり、夜はビーズを使ってアクセサリー作りもしました。女の子だけでなく男の子も夢中になっていて、みんな色や形の組み合わせにもすごくこだわって作っていました。みんながとっても器用なのでびっくりしました。

次の日も、完成したアクセサリーをニコニコしながらつけてくれていました。かわいかったです。

毎日が楽しかったので、本当にあっという間に時間が過ぎていきました。

最初はうるさくて目を覚ましていたニワトリの鳴き声も、どんどん心地良くなっていった、数日後にはニワトリの声の中でも目を覚まらずに寝れてしまっていました。



帰国前最後の夜には「カサロンの家」「希望の家」に暮らす子供たちみんなと外にテーブルを並べて、キャンプのように夕食を食べました。毎日とってもおいしいご飯を作ってもらっていましたが、みんなで食べる外ご飯は何よりもおいしかったです。

食後には子供たちが歌を歌ってくれたり、踊ってくれたり、出し物をたくさんしてくれました。

そのお礼に私たちもドラえもんを歌ったり、相撲を披露したりしました。

みんなで手を繋いで歌を歌ったり、聴いたり、言葉の意味はわからなかったけれど、とてもとても穏やかであたたかくて素敵な時間を過ごすことができました。

家族と遠く離れて住んでいたり、家族がいなかったり、きっとみんな寂しい思いも辛い思いもたくさんしているだろうけど、カサロンの家はただの寮ではなくて、タッサニーさんがみんなの親代わりになっていて、たくさんの兄弟がいる大家族のような場所でした。

日本にいては経験できないことの毎日で、タカさん、村井ちゃん、坂さんと一緒に今回のワークキャンプに参加できて、本当によかったです。カサロンの家でのゆったりとした時間の流れも居心地がよくて、まっすぐでキラキラな笑顔がいっぱいの子供たちとたくさん笑って生活ができて、とても充実した1週間でした。

またカサロンの家に来れるように、次に来る時はもう少し言葉も上達しているように、がんばりたいと思います！



報告2

～メーデーフェスティバル2018～

4月21日(土)、名古屋の久屋大通公園でメーデーフェスティバルに参加しました。昨年同様に名古屋NGOセンターと共同でブースを借り、カンボジアトイレ支援やタイ奨学金支援、山岳少数民族支援などの写真を展示し、パンフレットなどを配布しました。メーデーフェスには、ここ数年連続して参加していますが、他のNGOの出展はあまりないので、展示してある写真を興味深くご覧になる方も大勢いらっしゃいます。カンボジア支援のチラシやキャンヘルプのパンフレットなども多数配布できたので、これが寄付につながると嬉しいかぎりです。

報告3

～カンボジアトイレ支援の為に助成金獲得～

今年1月、名古屋NGOセンターの「東海地域NGO助成金」を「カンボジア小学校トイレ支援プログラム」で申請し、無事に17万円の助成金を獲得することができました。これに伴い、2018年度は1～2校のトイレ建設支援をカンボジアで行えることが決定しました。昨年度は4校の小学校へトイレを寄贈することができましたが、本年度も継続して支援できることを大変うれしく思います。

今年の3月に行われたタイチェンマイでのワークキャンプ後に運営スタッフの坂がカンボジアへ行き、本年度支援予定の学校を視察し、6月後半にもう一度カンボジアへ渡り、トイレ建設支援の開始を見届けてきます。支援校を増やすため、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

報告4

～2018年カンボジア小学校トイレ支援視察報告～

2018年2月26日から2月28日まで、カンボジアのサンパオルンへ行き、2018年カンボジア小学校トイレ支援プログラムの対象校を視察してきました。

① Tlok Saker 小学校



2部屋校舎が2つの計4教室しかない学校。最近になって2部屋トイレが建設された。

② Ou Okoki 小学校 児童数 252名



2教室の木造校舎と2教室のコンクリート校舎の計4教室の学校
トイレ建設用の募金を行っているが、60%ほど建設が進んだだけで、継続して募金を募っている。
幹線道路から約10キロほど土道を入ったところにあるので、雨季になると通学がとても困難。
新任の女性教師が4名 校長を入れて計7名
生徒数が多いが現在はトイレがないので、2018年はこの学校を支援予定

③ Ou Prohout 小学校（2017年支援のトラウチャー小学校の分校） 児童数 74名



細い丸太の柱にトタンの壁を付けただけの2部屋校舎。
簡単なトイレが作ってあったが、建設途中で放置され使用不可。 分校なので児童数が少ない

カンボジア小学校トイレ支援

2016年3月にカンボジアの小学校を視察し、教育環境の現状を調査したところ、この国のほとんどの学校が抱える問題として教室不足の深刻さがありました。ただ、いくら学校を新設しても、子どもたちを教える先生の供給も追いついていません。現在、カンボジアの多くの小学校は2部制をとり、午前と午後に生徒を分けることで、少ない教室、少ない先生を効率良く活用しています。しかし、2部制のままでは学習時間が足りず教育レベルの底上げが困難な状態になると予想され、近い将来、1部制に制度変更されれば、すぐに教室不足の問題が表面化します。ちょうど、20年前にタイの小学校が、中学校を併設にするということになり、教室不足に陥ったのと同様に、小さな子どもたちは壁のなり青空教室で砂埃にまみれながら勉強をしなくてはならない状態になるでしょう。

キャンヘルプタイランドでは、そんなカンボジアの子どもたちの将来を見据え、少しずつですがカンボジア支援の方向性と方法を模索しています。今回のカンボジア小学校視察で、「まず手始めに何をしたらいいのか?」「今のキャンヘルプタイランドになにができるのか?」を考え、まずは「トイレ・手洗い場の支援」から試行してみるという結論に達しました。カンボジアの田舎の平均的な小学校は、生徒数300名程度・先生10名程度に対して5教室の平屋の校舎が1つとトイレ2部屋があるだけの状態です。そこで、私たちは、比較的少ない金額で支援可能なトイレと手洗い場を造ってみる事にしました。これにより子どもたちの衛生環境は改善され、合わせて手洗いの指導などをすることにより、病気や感染症の予防改善にも役立つと考えます。この小さな支援をファーストステップとして、将来的には、タイ支援で培ったノウハウを基に、校舎の建設や奨学金の支給など、もう少し大きな支援へと移行していけたら素晴らしいと思います。皆様のご賛同とご協力をお待ちしております。



日本財団が支援した教室棟



壁のない教室で勉強する生徒たち



学校にあるトイレはこの2部屋だけ

カンボジア支援プログラム寄付金募集!

- 寄付金額 … 1口：5,000円（おひとり様何口でも構いません）
- 目標額 … 1事業30万円程度（トイレ4部屋と手洗い場を併設した建物1つ分）
- 寄付方法 … 振込用紙にて郵便局よりお振込下さい。
*振込み用紙の通信欄に“カンボジア支援”とご記入ください。
- お振込先 … 郵便振替口座
□ 座名：NPO キャンヘルプタイランド
□ 口座番号：00280-2-43793
- 寄付金の使途 … ご寄付頂いた全額をカンボジア支援プログラムに限定して使わせていただきます。

皆様のご協力により、2017年度は、カンボジア バッタンバン州サンパオルン郡の4つの小学校へトイレを支援することができました。2018年度は、小学校1校へのトイレ支援を計画しています。

●お問い合わせ先●

特定非営利活動法人 キャンヘルプタイランド

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南1-20-11 NPOプラザなごや2階南

URL <http://canhelp.jp> Mail office@canhelp.jp 電話 052-566-5131

お知らせ

～ご寄付のお願い～

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名（寄付金の使途）を記入してお振込み下さい。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム	1 □	10,000 円
ランチプログラム	1 □	5,000 円
建設プログラム	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
カンボジア支援プログラム	1 □	5,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 ※	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…

会員になっていただいた方には、年 4 回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。年 1 回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>

口座名：NPO キャンヘルプタイランド
番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2018年2月～4月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	2月	事務所	カサロンワークキャンプ準備
運営委員会	3月	事務所	総会準備
運営委員会	4月	事務所	平成 29 年度総会

運営委員募集中！

通常は毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

2 月の後半にタイでのワークキャンプに参加し、その足で 2018 年度のカンボジア支援の視察へ行きました。チェンマイから飛行機でバンコクへ戻り、空港近くのバスターミナルから、カンボジアとの国境の町「アランヤプラテート」へ向かおうとしましたが、ちょうどいい時間のバスがなく、仕方なくタクシーで移動することにしました。一人だと 6,000 円ほどの料金ですが、偶然ロシア人カップルとタクシーをシェアすることができ、一人 2,000 円で、300 キロ以上離れた街へ移動できました。こんなトラブルも旅の醍醐味です。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.81>

発行 NPOキャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2018年5月20日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市中区区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN : 土曜の13~16時頃)

E-mail : office@canhelp.jp
 ホームページ : http://canhelp.jp